

医療従事者の苦労理解

勝山・荒土小児童 コロナ考える



新型コロナウイルスに関する記事を読んだ感想を書く児童＝21日、勝山市荒土小



NIE(教育に新聞を)の一環で、新型コロナウイルスについて考える授業が21日、勝山市荒土小で行われ、6年生17人が新聞記事を通じて医療従事者の苦労などに理解を深めた。今後も地域の感染防止対策などを学び、その成果を9月の台湾・台北市の小学校とのオンライン交流で発表する。

同校はNIEを進めるとともに、ユネスコの支援団体「アートマイルジャパン」の国際協働学習プロジェクトに参加。台北市の小学校「鶯橋國民小學」と連携し、感染防止に配慮した新しい生活の在り方を提案する取り組みを進めている。オン

ライン交流で意見交換などをした上で最終的に両校で新しい生活を表現した絵を制作する。

この日の授業で6年生は新型コロナウイルスの感染者に対応した看護師やその家族の記事を読むなどした。医療従事者の負担を軽くするために自分たちができることとして「しっかり消毒をする」「応援メッセージを送る」などと発表。黒田菜々美さん(12)は「看護師さんらのため、みんなが協力していくことが大事だと思った」と話していた。

勝山市では公立の全小中学校が、ユネスコスクールの持続発展教育(ESD)の関連事業と位置付けてNIEに取り組んでいる。

(桂知之)